

河川課

1 流域治水の推進

近年、全国的に集中豪雨による被害が激甚化・頻発化しており、本県でも大きな被害が発生しています。

平成10年9月には、台風7号により、動橋川で堤防が決壊するなど大規模な被害が発生し、平成20年7月には、金沢市山間部で発生した集中豪雨により、浅野川が氾濫し、金沢市中心部に甚大な被害が発生しました。

また、平成30年8月には、能登地方を中心とした豪雨により、米町川が氾濫するなど大きな被害が発生し、さらに、令和4年8月の加賀地方や令和5年7月の河北郡市を中心とした記録的な大雨により、梯川や津幡川等の河川が氾濫し、甚大な被害が広範囲に発生しました。

河川管理者が主体となった従来の治水対策だけでは、このような被害を防ぎきれないことから、流域全体の関係機関が一体となって取り組む流域治水の考えに基づき、ハード・ソフト両面での対策を県下全域で推進しています。

① ハード対策

(1) 抜本的な河川改修

過去に大規模な被害が発生した河川や、人家が連担するなど、ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される県管理の16河川において、重点的に河川改修を進めています。

また、手取川と梯川では、国直轄による整備が進められています。



手取川（河口付近の樋門整備）



梯川（国道8号付近の拡幅）



動橋川（動橋大橋付近の拡幅）



岸川（河口付近の拡幅）



米町川（梨谷小山橋付近の拡幅）

(2) 即効性のある堆積土砂除去

県管理河川のうち、堆積傾向にある約160河川について、土砂の堆積が見込まれる箇所の計画的な除去を進めています。

また、堆積の進行は降雨の状況にもよることから、継続的に堆積状況を確認した上で、緊急性が高い河川の土砂の除去を実施しています。



堆積土砂除去の事例（涌波川：金沢市北陽台2丁目）

(3) 河川の堤防強化

越水時の河川の堤防の決壊を遅らせて住民の避難時間を確保するため、舗装等により堤防を強化する対策を進めています。



堤防強化の事例（梯川：小松市花坂町）

改修中の河川

(県:16河川、国直轄:2河川)

- 能登地区：河原田川、町野川、若山川、米町川、熊木川、鷹合川
- 金沢地区：大野川、森下川、犀川、高橋川
- 加賀地区：西川、安原川、前川、八丁川、柴山潟、動橋川
- 国直轄：手取川、梯川

改良復旧中の河川

(県:7河川、国直轄:1河川)

- 能登地区：津幡川、能瀬川、宇ノ気川、大海川
- 加賀地区：鍋谷川、滓上川、仏大寺川
- 国直轄：梯川



熊木川 →改修(河川拡幅、河床掘削)



平成30年8月31日 浸水状況
床上浸水1戸、床下浸水29戸、浸水面積111ha

米町川 →改修(河川拡幅、築堤) **上流延伸**



平成30年
8月31日
浸水状況
床上浸水 9戸
床下浸水 84戸
浸水面積101ha

鷹合川 →改修(河川拡幅、築堤) **上流延伸**



平成25年
6月19日
浸水状況
床下浸水 3戸
浸水面積 8ha

大野川水系 →改良復旧(河川拡幅、堤防高上)
大海川 →改良復旧(堤防高上、護岸高上)



令和5年
7月13日
浸水状況
床上浸水 184戸
床下浸水 383戸
浸水面積132ha
(能瀬川：津幡町)

梯川水系 →改良復旧(河川拡幅、河床掘削)



令和4年8月4日
浸水状況
床上浸水254戸
床下浸水459戸
浸水面積617ha
(鍋谷川：小松市)
(梯川、滓上川：小松市 R4.8.5付 北國新聞)

森下川 →改修(河川拡幅、築堤)



平成10年9月22日 浸水状況
床下浸水20戸、浸水面積35ha

安原川 →改修(河川拡幅、河床掘削)



平成25年8月23日 浸水状況
浸水面積1.7ha

高橋川 →改修(河川拡幅、河床掘削)



平成20年7月28日 浸水状況
床上浸水3戸、浸水面積47ha

動橋川 →改修(河川拡幅、築堤)



平成10年
9月22日
浸水状況
床上浸水22戸
床下浸水52戸
浸水面積139ha

(4) 改良復旧による治水機能の強化

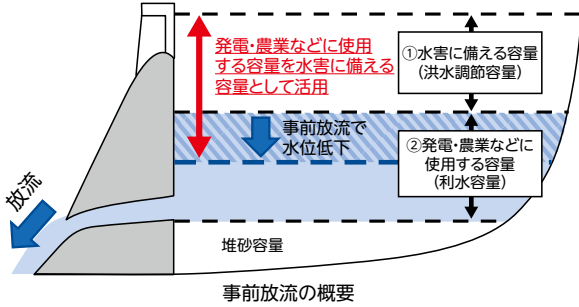
令和4年8月及び令和5年7月の豪雨と同程度の洪水でも河川の氾濫が発生しないよう、梯川水系(鍋谷川、滓上川、仏大寺川、梯川(国直轄))及び大野川水系など(津幡川、能瀬川、宇ノ気川、大海川)において、復旧工事と一体となった改良工事を行うことで治水機能の強化を図ります。

(5) ダムの管理

本県では河川総合開発事業により、昭和39年度に完成した我谷ダムをはじめ、10ダムを管理しています。これらのダムは洪水調節のほか、溜めた水を発電や水道水などに用いる利水を目的としています。

想定以上の洪水が予想される際は、利水用に溜めた水の一部を洪水前に放流し、一時的に洪水調節容量を増やす事前放流を行っています。

また、犀川ダムと内川ダムでは、ゲート設備を遠隔操作できるように整備を進めています。



事前放流の概要

土木部管理ダム



犀川ダム（金沢市）
制御処理設備の更新と併せて、ゲート設備の遠隔操作化を実施中



小屋ダム（珠洲市）
小屋ダムなど利水容量を有するダムを対象に事前放流を実施

(6) 河川管理施設の長寿命化

河川管理施設（ダム、水門、堰など）は昭和50年代に建設されたものが多く、老朽化の進行による、将来の更新費の増大や集中が懸念されています。

このため、損傷が軽度な段階で小規模な補修を計画的に繰り返す、「予防保全型」補修を実施することで、施設の長寿命化を図り、将来の補修、更新費を縮減する取り組みを進めています。

予防保全型維持管理の事例（高橋川月橋水門：白山市）



扉体の腐食防止対策

② ソフト対策

近年、ハード対策だけでは防ぎきれない記録的な豪雨が頻発していることから、住民の「逃げ遅れゼロ」を目指し、避難態勢の強化を図るソフト対策を並行して進めています。

(1) 洪水浸水想定区域図

想定し得る最大規模の降雨による洪水を対象に、浸水が想定される区域と水深を示した「洪水浸水想定区域図」を公表しています。

市町では、この図をもとに洪水ハザードマップを作成し、住民への浸水リスク情報の周知に取り組んでいます。



洪水浸水想定区域図（犀川）

(2) 住民の防災意識向上対策

水害・土砂災害から迅速かつ確実な避難行動をとるために、ハザードマップの活用方法などについて解説したリーフレットを作成し、全世帯へ配布しています。あわせて、リーフレットの解説動画を作成し、県ホームページやYouTubeで公開しています。

また、町会等へ出向いて、防災意識の啓発を図るための県政出前講座を行っています。



水害・土砂災害に備えるリーフレット

解説動画はこちらから視聴できます



県政出前講座はこちらから詳細を確認できます



県政出前講座 開催状況

2 海岸保全対策の推進

① 海岸保全対策の方針

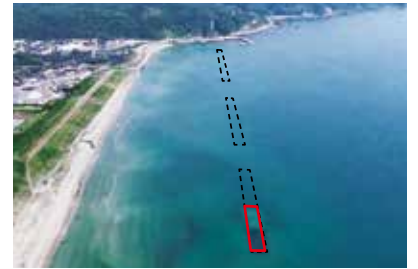


本県の海岸は、加越沿岸と能登半島沿岸からなり、海岸線延長は約580kmに達します。

近年は冬季風浪等による侵食で砂浜が狭くなっており、海岸保全の重要性が高まっています。このため、特に侵食の著しい金沢海岸（金沢市）、七塚海岸（かほく市）、押水羽咋海岸(千里浜海岸)（羽咋市、宝達志水町）、増穂浦海岸（志賀町）において、人工リーフや養浜工等による侵食対策を進めています。



海岸保全施設の被災(H27.12 増穂浦海岸)



人工リーフの整備状況（増穂浦海岸）

② 主な海岸保全対策

千里浜再生プロジェクト

千里浜海岸は、羽咋市と宝達志水町に位置し、日本で唯一、世界でも珍しい、車で走行できる砂浜海岸であり「千里浜なぎさドライブウェイ」として、後世に残すべき貴重な観光資源です。

しかし、近年、侵食により砂浜幅が狭くなってきていることから、その保全が極めて重要となっており、平成23年5月には「千里浜再生プロジェクト委員会」を設置し、ハード・ソフト両面から対策に取り組んでいます。



人工リーフの整備 (H21~)



千里浜なぎさドライブウェイ



夕暮れの千里浜海岸

ハード面では、人工リーフの設置や浚渫砂を利用した砂の海上投入、局所的な陸上からの養浜を行っています。

砂の海上投入については、滝港沖で採取した千里浜海岸に適した砂を羽咋地区人工リーフ付近に投入し、海の自然の流れを利用した養浜を実施しています。



海上投入の実施状況 (砂の採取)



海上投入の実施状況 (砂の投入)

ソフト面では、県と地元が協力し、企業や団体からの協賛を得ながら「千の輝き」などのイベントに加え、マスメディアの活用や大都市圏でのPR活動に取り組んでいます。

また、子どもの頃から海岸保全の意識を育ててもらうため、千里浜の歴史やプロジェクトの取組等について学習する「千里浜海岸ものしり教室」を開催しています。



千の輝き2023
ミニコンサート



千里浜海岸ものしり教室開催状況
(宝達志水町の小学校で開催)